



をオンラインにて開催しました!

① 公共施設とは?

公共施設とは、市民の皆さんが、生活に結びついたサービスを受けられるように整備された施設のことです。市では、これらの施設を皆さんが安心・安全にいつでも自由に利用できるよう、維持管理、運営を行っています。



② 老朽化が進んでいます

- 市の施設98施設(2020年現在)のうち、約3分の2は築30年以上経過
- 事故防止等のため修繕等が必要



③ 多くの費用がかかります

- 今後40年間に施設の更新が集中
- 更新費用はこれまでの年間6.8億円から約2倍に



④ 大幅な人口減少が予測されています

- ピーク時の人口は2002年の62,503人、2020年は57,378人
- 40年後には現在の約3分の2の人口になる可能性も



⑤ ニーズが大きく変化しています

- 人口減少・少子高齢化による利用者の変化
- ICT技術の向上や新型コロナウイルス感染症の影響などによる生活の変化
- 公共施設の使われ方も変化している



⑥ 計画的な対応が必要です

計画的な点検・改修により、故障等を予防し、修繕コストを抑え、長寿命化

1つの施設を複数の用途で利用し、コストを抑え、利便性向上

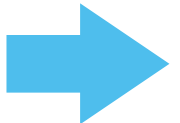
施設の用途、数、配置等を人口減少やニーズの変化に合わせて再編



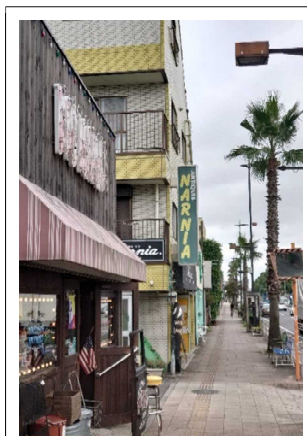
上記のことをふまえ、今回の地域懇談会では、**文化の森エリア**の公共施設について考えました。

文化の森とは?

2枚目のパネルをご覧ください。



文化の森エリアとはこんなところです！



国道 16 号線沿道



福生第三小学校



福生野球場



さくら会館



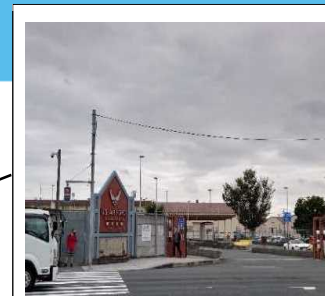
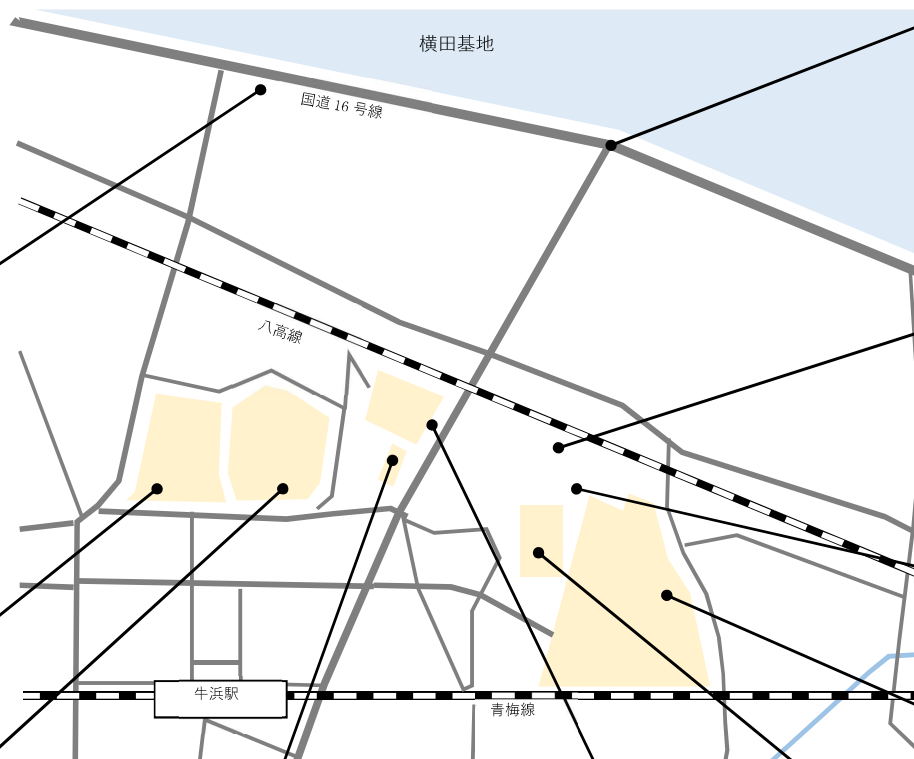
市民会館・公民館



中央図書館



福生第一中学校



横田基地・第 5 ゲート付近



文化の森



茶室「福庵」

ワークショップの結果は
次のパネルをご覧ください。



子育て支援・子どもの居場所機能 についてのワークショップ結果

ワークショップのやり方

1つのテーマで2回のワークを行いました。



1 回目
どんな機能があったらいいかの
アイデア出し

2 回目
1回目で出たアイデアの中から今後、より大切になっていくと
思うもののその理由を考え、一つ選ぶ

子育てサロン

必要な機能

- ・オープンスペース、いつ行っても誰かがいるような子育て世代の居場所
- ・子育て中の親が孤立しないよう、相談でき、ホットでできる場
- ・DVから子どもを守るための相談窓口等(子どもの見守り)

大切になっていく理由

- ・人が生きていく上では横のつながりが大事である
- ・見守りや支えあいがあれば、福生市は子育てするのによい場所だと思ってもらえる



文化の森(里山)

必要な機能

- ・文化の森、情操的な要素を加える

大切になっていく理由

- ・「文化の森」(図書館の裏あたり)の自然を活用しながら守りたい



中高生が気軽に集まれて運営にも関われる居場所

必要な機能

- ・防音設備のある音楽室(ドラムの練習など可能)
- ・中高生が騒いでも叱られない場所

大切になっていく理由

- ・孤立してしまう中高生をケアしていく必要あり
- ・子どもたちも「場づくり」に関わってもらい、子どもたちの心も育てる
- ・施設づくりを通じて人の心も育てていく
- ・子どもたちの年齢や発達段階に応じて、必要になってくる場所を用意する



常設のプレイパーク

必要な機能

- ・細かなルールや禁止事項がなく、見守りの中で自由に遊べる場所
- ・保育士が手遊び等を教えるなど、親子連れで集まれる場
- ・子どもが安心していける、大人が見守れる場所

大切になっていく理由

- ・各年代の人が行けて安心できる場所・機能の追加



その他に出た意見

必要な機能

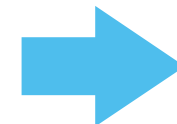
- ・子どもが病気になったときに預けられる場所、施設(病児・病後児保育施設をもっと身近に)
- ・心の大切さ、人の心を大事にできる施設



2つ目のテーマは

【生涯学習機能】についてです。

次のパネルをご覧ください。



生涯学習機能 についてのワークショップ結果

デジタル化支援機能

必要な機能

- ・デジタル化支援の講座
- ・各種申請・手続き、オンライン交流

大切になっていく理由

- ・身の回りのデジタル化は進んでいくが、高齢者是对応が困難で活用しきれないそこをフォローする役割が求められる
- ・お年寄りもワクワクして生活できるような支援が必要



多言語交流支援機能

大切になっていく理由

- ・福生には多様な国籍の人が住んでいて、それぞれ、言葉で苦労している
- ・言葉の壁がなければ暮らしやすく、日本人住民との交流も生まれる
- ・横田基地があることを活かして日常的に交流を継続しながら英語を習得できると良い



オンラインを活用した交流・学習

大切になっていく理由

- ・日中時間が取れない人にも幅広い世代に参加してもらえるように
- ・コロナ禍での人との交流を意識しながら遠隔地の公私ともつながって学習を充実させられる



その他に出た意見

必要な機能

- ・本を通じた交流等、幅広い機能
- ・パソコン室(調べもの、DVD)



第4回地域懇談会ファシリテーターの講評

お ざ わ な
小澤 はる奈氏

「ハコモノ(公共施設)」がテーマだったが、ハード面よりもその中身、役割について議論を深めていただいた。

「子育て支援機能・子どもの居場所」に関しては、いつ行っても誰かがいて、安心できる、相談ができる場所が重要であるということ。子どもが減少し、子育てする人が孤立しやすくなる社会状況が予想される中で、公共施設がそこをつないでいく役割が必要なのではないかと。「場所がある」ということにプラスして、「人がいる」ということが大事だと、共通して発言していただいた。エリアの特徴である「文化の森」、いわゆる里山のような自然を活用し、子どもたちにもその場づくりに関わってもらい、施設づくりを通じて人の心も育てていく、というような発想で話が繰り広げられていたかと思う。

2つ目のテーマ、「生涯学習機能」では、横田基地があり、多国籍の方が暮らしているという福生市の特徴に着目し、外国籍であることで苦労をしている方たちがストレスなく学習に関わることができるような設備や環境づくりの視点が示された。また、オンライン講座などで、感染症対策を取りながら交流ができるような環境づくりや、日中時間が取れない方や幅広い年代の方が学習に参加できるような環境づくりといったことが挙げられていた。これからデジタル化が進展していく中で、不慣れな人も取り残されずに、新しい機能を使いこなせるように、公の機能としてそこを支える必要があるということが一つの結論として見えたかと思う。

今日は「ハコモノ」がテーマではあったが、人とのつながりとか、交流、支え合いというようなことがキーワードとして出てきた。「ハコモノ」の話をしているようで、実は、いかに人と人とのつながりを紡いでいくか、強くしていくか、といったことがメインテーマになるのだらうと思う。そのためには、多くの人がハコモノを「自分事」として考えていく機会を持つことで、人づくり、コミュニティづくりが自分事として深まっていくのではないかと。